



のどが痛い、熱が出る…

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎 が増えていきます



…A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは…

- A 群溶血性レンサ球菌による上気道（鼻からのどまで）の感染症です。どの年代でもみられますが、幼児期から学童期の小児に多くみられます。
- 咳やくしゃみなどのしぶきに含まれる細菌を吸い込むことによる「飛沫感染」と細菌が付いた手で口や鼻を触ることによる「接触感染」が主な感染経路です。



★山形県内では患者数が多い状態が続いており、なかでも置賜地域の患者数が多いため注意が必要です。

…A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の症状…

- 38℃以上の発熱、咽頭発赤（のどが赤くなる）、莓状の舌（舌に莓のようなツブツブが出る）、手足や体に小さくて赤い発疹が出るなどの症状があらわれます。
- 熱は3～5日以内に下がり、他の症状も1週間以内に改善することがほとんどですが、「猩紅熱（しょうこうねつ）」と呼ばれる病気に移行することがあります。

…予防のためにできること…

- 手洗いをしっかりと。
- 咳エチケットが有効です。
 - ・症状があるときはマスクを利用しましょう。
 - ・咳やくしゃみをするときは、ハンカチなどで口をおおきましょう。



…治療について…

- 抗菌薬による治療を行います。症状がよくなっても医療機関からの指示どおりに薬を飲むことが大切です。
- 水分補給をこころがけましょう。



山形県置賜保健所(保健企画課 感染症対策担当)

〒992-0012 米沢市金池7-1-50 ☎0238-22-3002

☆ 感染症に関する出前講座を行っています。お気軽にお問い合わせください。